



「頑張る宮高生を応援する！」進路情報誌

ADELANTE -前進-

第 34 号

令和元年 7 月 9 日 (火) 発行

発行：宮古高校進路指導部

「ユメタ」の著者・キムタツ先生が

高校生に贈ります

全学年！ 注目！ 必読！

蛍雪時代4月号 2019 抜粋

受験勉強はとっくの昔に始まっている！？



3年生だけでなく、「まだ受験生じゃない」という1、2年生も是非お読みください。3年生になったら受験勉強を始めなければならない、と考えている人もいるかと思うのですが、実際にはみなさんはとっくの昔に受験勉強を始めています。なぜなら、**大学入試で出題されるのは、高3で学ぶ内容ではないから**です。その大半が、**中学校や高1・2で教わったことから**出題されます。つまり、中学生の頃から大学入試に向けての受験勉強をしてきたのであり、今から受験勉強という特別な勉強をするわけではないのです。

ざっくり言えば、**受験勉強というのは教室で教わったことの復習**を意味しています。ですので、これまでしっかり復習してきた人は、たいそうな勉強をしなくても大学入試を（かなり難しい大学であっても）突破できます。よく合格体験記などで「それほど勉強しなかった」とか「いつも10時間寝ていた」とかいうコメントがありますが、それなりに復習してきた人たちにとっては、大学入試はその程度のものなのです。一方、これまで復習をサボってきた人は中学レベルから復習することになるので、**相当な覚悟と時間と労力とが必要だ**ということになります。

高1や高2の人たちにとっても、受験勉強はすでに始まっています。定期考査のために暗記をしたり、小テストに合格するために一夜漬けをしたりするその場しのぎの勉強は時間のムダで、1年後や2年後を見据えて、**脳に定着する勉強をしなければもったいない**のです。それだけは覚えていてください。

「何時間勉強したか」より「何回繰り返したか」



受験生になると何時間も勉強しなければならないというイメージは今もあると思いますし、実際、やることが多い人（復習してこなかった人）の場合には、時間がいくらあっても足りないと感じることでしょう。でも、何時間勉強したって、**ダメなものはダメ**なのです。なぜかという、僕たちの脳は忘れるからです。有名な「エビングハウスの忘却曲線」によると、**昨日暗記したことを100とすると、今日覚えているのはそのうちのたったの26**なんだそうです。74のことは忘れてしまうのです。ああ無情。

暗記が苦手という人がいますが、**人間はそもそも忘れる生き物**なのです。生死に関わる情報でない限り、忘れてしまっても問題ないわけですからね。でも、英語の単語や日本史の知識などは、生死に関わらないけど忘れたくありませんよね。では、どうすればいいか。**方法は1つしかありません。何度も反復すること**です。同じことを何度も何度も何度も何度も反復しているうちに、脳に刷り込まれていきます。九九を忘れようとしても忘れられないのと同じです。逆に言えば、脳に刷り込まないような暗記には意味がないということになります。先ほど、「小テストのための勉強は時間のムダ」と書いたのはそういうことです。我々の脳は、何度も入ってくる情報を「これは生死に関係のあることかも」と誤解することが脳科学でわかっています。この誤解を利用するのです。**覚えたつもりであることであっても、しつこいくらい反復しましょう。**勉強時間を意識している人は「昨日は10時間も勉強した」などと発言するのですが、**結局忘れてしまう勉強を10時間やっても意味がありません。**それより**反復回数を意識して**、「この単語集は20回以上反復した」や「この長文を読むのは10回目」など、**脳に刷り込む勉強をすること**です。そうすることによって忘れようとしても忘れられない知識が増えていき、点数も徐々に上がっていきます。そして、そういう勉強をした人こそが、志望校の合格通知を手にすることができるのです。

冒頭でお伝えしたように、**3年生だけが受験生ではないのですから、1年生や2年生もこの意識を持って勉強してください**ね。頑張るみんなを応援しています。

細かい内容はクラス棚にある蛍雪時代を読もう！勉強をするモチベーションが上がらないとき、きっとやる気スイッチになってくれるでしょう。

